

# 令和6年度 大阪府立高津高等学校 第2回学校運営協議会 会議録

日時：令和6年11月18日(月) 16:15～17:10

場所：本校校長室

出席者：委員 森田 英嗣（大阪教育大学教授）  
竹村 伍郎（NPO法人 まち・すまいづくり 理事長）  
古門 真一（同窓会副会長）  
田原 裕之（大阪府立高津高等学校 PTA会長）＜オンライン参加＞  
事務局 寺本 圭一（校長）、井上 博人（教頭）、大谷 則明（事務長）  
前川 紘紀（首席）、中原 章太（首席）、井濱 友輔（首席）  
尾崎知佐子（企画広報部長） 菅 康之（書記）

## 1. 令和6年度「学校経営計画」の進捗状況等について

本年度の取り組み内容について資料の補足説明を校長が行う。

講習・補習の充実について

- ・自習室の利用平均人数は昨年を上回っている。考査前は満席に近い状態である。

英語運用能力の向上について

- ・GLHS 合同海外研修には本校から3名、10校で30名が参加。
- ・海外オンライン交流には計約150名が参加。

海外の学校等との交流の推進

- ・台湾サイエンスツアーは18名参加予定だが、費用高騰のため参加希望者は減っている。

学校の組織的運営、校務の効率化及び情報共有について

- ・首席を中心に学年委員会を設置し、教職員の情報共有を高めている。

開かれた学校づくりの推進について

- ・教育活動や行事などを学年主任から保護者メールで頻繁に発信し好評を得ている。
- ・進路講演等には保護者も参加できるようにしている。

言語・ICT活用力の向上について

- ・ICT活用力向上のため、コンテスト等への参加を増やしていきたい。(科学の甲子園7位入賞)

総合的な学力の測定について

- ・国公立大学志向が高い。

取り組みの成果を他校・地域へ発信・普及することについて

- ・公開授業を他校に対しても積極的に行い、WEBにも探究活動資料を公開している。
- ・今後はどれだけダウンロードされているかがわかるよう改善していきたい。

## 2. 質疑応答・討議等

委員：授業見学した教室では、ほとんどオリジナル教材使用であったが、全体的にもそうなのか。

教員：大体はオリジナルで、特に社会科は多い。物理では同じ教材を共有して行うこともある。

委員：ICTやプリントを効果的に使われている人が多かったようだ。

教員：プリントは共通にしている教科もあるが、教え方は個々に異なるようだ。

委員：大学でもシラバスに沿った講義を考えると標準化され、同じようになる。また、ビデオで素晴らしい講義を録画し講義を行えばよいということになると、個性がなくなる心配も出てくる。

教員：休んでいる生徒もオンラインで授業を受けることができるメリットがある。

教員：オンラインより対面授業のほうがいいと思っている生徒が多い。先生に魅かれて学ぶ意欲をもつ。

委員：語学交流事業（GULS）のための国際交流センターでの部屋の確保が困難になっていると聞くが。

教員：今後、工事予定が入ってくるのが原因で、今後は本校での実施も費用徴収等についても含めて検討している。元々この事業は本校が立ち上げて、他校も参加出来る形態になったが、本校でするなら、本校生徒が多く参加できるようにしたい。

委員：先生と生徒・家庭との距離感も近く、学校のことがよくわかってありがたいが、そのために先生方が働き過ぎているようなことになっていないか。お身体に気をつけていただきたい。

委員：資料の残業 43 時間 37 分とは何の平均か。

教員：1 人あたりの月平均残業時間のこと。

委員：遅刻数は以前より減少しているように感じられるが実際はどうか。

教員：コロナ前の方が数は少なかった。コロナによって、体調不良による欠席や遅刻することのハードルが低くなっている。

教員：5 回遅刻ごとに早朝登校や振り返りシート作成、ホワイトプランなどの指導を行っている。スマートホンの使い過ぎによる睡眠不足からの体調不良が多いことが分かったので、1 学年では「スマホ緊急宣言」を行い、使用制限を行うなど対策を行っている。

委員：考査欠席の場合の成績はどうなるのか。

教員：他資料からの見込み点をつける。

委員：大学でも体調不良による欠席が増えているが、試験を受けなければ単位はとれない。

委員：統計をとると、入学時の学内での成績が下位の場合より、志望を変えて成績が上位になる学校に進学するほうがその後の学力は伸びるらしいが、高津高校ではどうか。

教員：入試の成績と入学してからの学力を結びつけたデータはもっていないが、1 年前期の成績と共通テストの成績の相関はある。教師に頼ってプリントや講習を求める生徒より、塾に行かず、自分で学ぶ生徒の方が伸びる傾向がある。

教員：高津は自由だからと思って入学する生徒は、想像以上にしんどくて本校と自分のミスマッチに気づくことが多い。最近では学校説明会で、楽しさや自由だけを求める生徒はミスマッチをおこしやすいと伝えるようしている。

委員：他人と比べることのない環境を自分でつくればいいが、相対評価に慣れてしまっていると難しい。

委員：与えられたすべてを全力で取り込まなければというプレッシャーを感じている生徒もいるので、そのような生徒にも個別の対応をしていただけるとありがたい。

委員：学生にストレスをかける状態がいいのかどうか。高校生は与えられたものをすべてしないといけないと思っているのでプレッシャーになるではないか。できなくても思えばよいがそれが難しい。

委員：“やり直し”もできることに気づいてほしい。

委員：“カリキュラム”とは“自分がたどってきた道”。色々な経験をするのが大切で、学力と経験は違う。それが転職にもつながる。転職は日本ではまだ浸透していないが世界ではプラスに評価される。高津で自分が何をしてきたかというカリキュラムを生徒がつかれるようにサポートする。

校長：多彩なプログラムを用意して生徒に成功体験を味わわせていきたい。

3. 事務連絡： 第3回学校運営協議会の日程については令和7年3月下旬予定